

はじめに

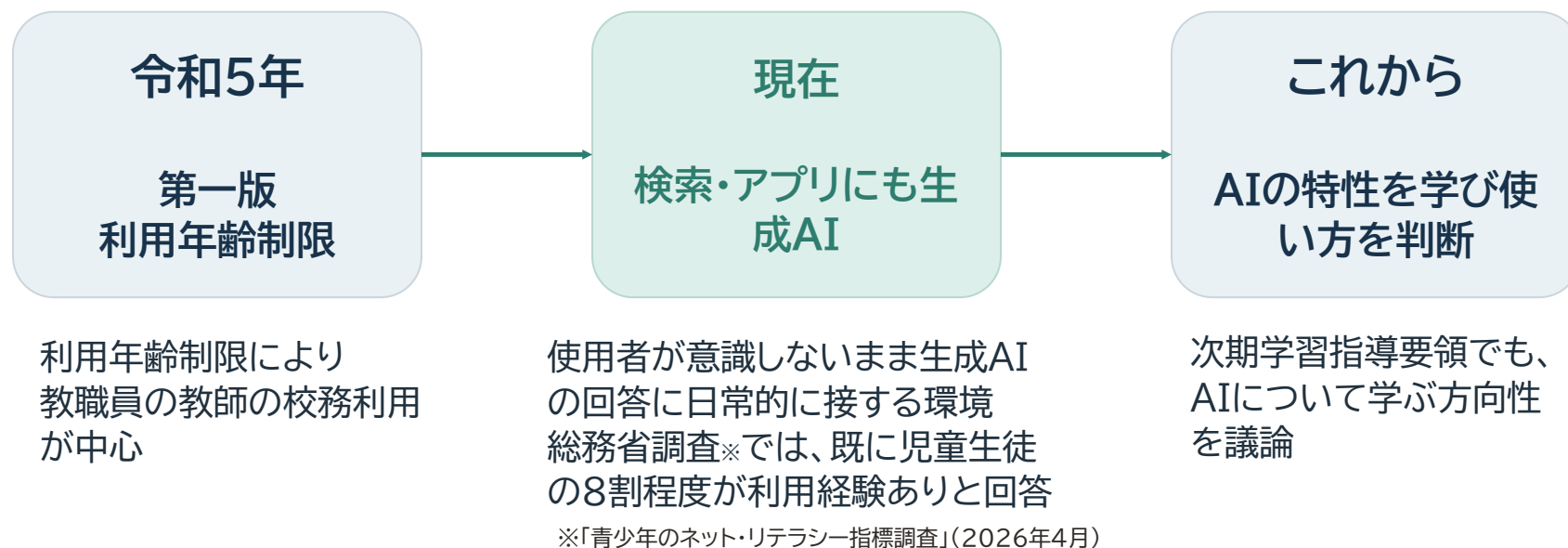
■ 現在の状況

戸田市の教育における 生成 AI の利用に関するガイドライン (Ver. 2.0)

戸田市教育委員会
令和 8 年 10 月

目 次

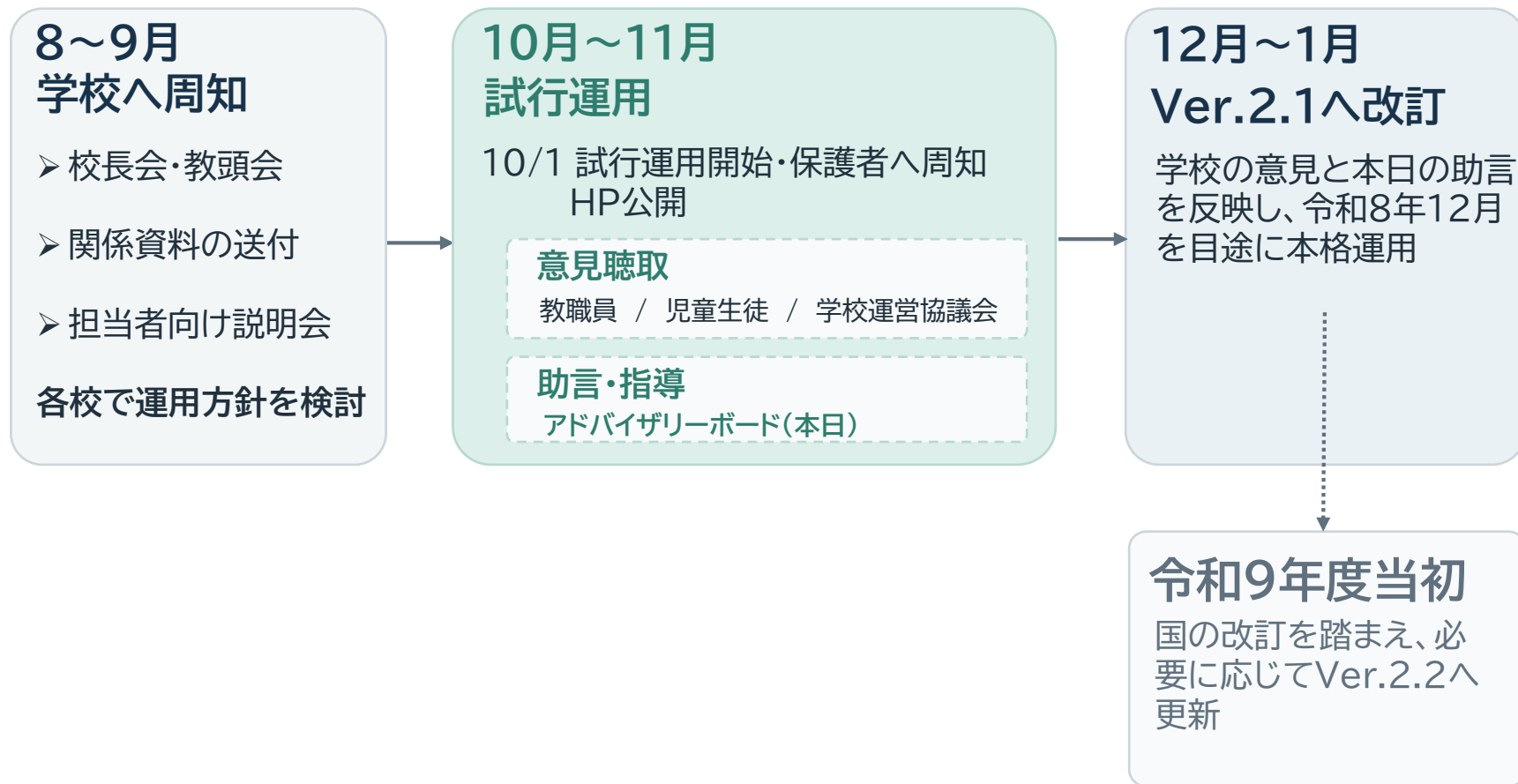
1	ガイドライン改訂の背景と趣旨	1
2	戸田市の教育における生成 AI の利用に係る基本的な方針の整理	3
3	本市の教育における生成 AI の利用について	6
	(1) 生成 AI の分類について	6
	(2) 対象とする生成 AI サービス	6
	(3) 教職員による利用（校務・授業準備等）	8
	① 推奨される適切な利用例	8
	② 禁止・不適切と考えられる利用例	8
	③ 児童生徒に生成 AI を利用させる際の指導上の留意点	9
	(4) 児童生徒による利用（学習活動）	9
	① 児童生徒による生成 AI サービスの利用基準	10
	② 推奨される適切な利用例	11
	③ 禁止・不適切と考えられる利用例	12
	④ 学習評価における留意点	12
	⑤ 特別な支援を必要とする児童生徒等への利用	13
	(5) 事前学習	13
	(6) 家庭・保護者との連携と見守り	13
	① 学校と家庭の役割分担とルール共有	13
	② 教師が課す課題における家庭での見守りへの支援	14
	③ 私生活における適切な利用の促進と安全確保	14
	④ トラブル発生時の対応と関係機関との連携	15
4	生成 AI の利用に当たっての注意事項	16
	(1) 安全性及び法令遵守を踏まえた適正利用	16
	(2) 情報セキュリティの確保と機密情報の適切な管理	16
	(3) 個人情報、プライバシー及び知的財産権等の保護	17
	(4) 公平性及び信頼性の確保	17
	(5) 透明性の確保及び関係者への説明責任	18



現在の生成AI環境に教育として向き合うための改訂

はじめに

■ 現在の状況



はじめに

■ 説明内容

- 改定の考え方
- 学校現場への実装に向けた取組

■ 協議いただきたいこと(論点)

学校現場への実装

生成AI活用ガイドラインVer.2.0の趣旨を学校現場に実装し、児童生徒の安全かつ適切な活用につなげるために、今後どのような取組が必要か。

▲AIを使えるようにすることだけではない

1 AIでは代替できない力

自ら考え、判断し、対話し、
責任をもって意思決定する

2 AIを活用できる力

思考・探究・創造を広げ、
深めるために適切に活用する

①②を一体的に育て、自分で考え、判断し、
自分の言葉で伝える力を育てる

生成AIは、学びを支え、考えを広げ、問い直し、深めるための手段の一つ

事前学習を土台とした利用の考え方



事前学習

生成AIのしくみや特性、限界、情報の確かめ方、安全な使い方等をすべての学年で発達の段階に応じて学びます。

主な学習内容

■AIは間違えることがある(情報を確かめる)

事実かどうかを自分でも確かめ、必要に応じて出典を確認する

■自分を含む個人情報を入力しない

自分や他人の情報を絶対に入力しない

■著作権などの権利を尊重する

引用のルールを守り、他人の権利を侵害しない

■まず、自分で考える。そして主体的に判断する

AIを答えを出す道具として使用しない。自分の考えを深めるための道具として利用する

■悩みや困りごとはAIではなく人へ

家族や先生など、信頼できる人に相談する

基本的な利用場面



先生が生成AIを使った例を示したり、グループで一緒に使ったりしながら、自分の考えと生成AIの出した回答を比べ、考えを深めたり、別の資料で確かめたりします。特性や限界、注意点への理解を深めます。

小学校5年生以上では



学習の目的や課題の条件に応じて、先生が示した条件のもとで、一人で生成AIを利用することもあります。

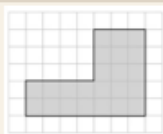
事前学習 + 発達段階に応じた利用区分を設定

比較対象としての活用

小4以下

教師が全体場で利用

例:小4算数
「複合図形の求積」



図形の分け方や組み合わせ方に着目し、面積の求め方を説明する学習です。友達の考えなど比べる中で、必要に応じてAIが示した求め方も比較材料とし、自分の考えを広げたり確かめたりします。



1 自分の方で面積を 求める

まずは1人で面積の求め方を考えます



2 友達の考えや、必要に応じてAIが示した求め方と自分の考えを比べる

全体で考えを出し合う中で、必要に応じて先生がAIの考えも提示します。自分の考えとの同じ点や違う点を比べ、考えを深めます。



3 ②を踏まえ、求積方法を整理する

自分の考えを見直したり、求積方法を整理したりしてまとめます

友達の考えだけで十分に比較・検討できる場合は、AIを使う必要はありません。AIを使う場合も、正解としてではなく、比較するための一つの考え方として扱い、自分自身の考えを深められるようにします。

教師による提示を基本的な利用方法として位置づけ

授業における利用例(児童生徒の個別利用)

保護者用 リーフレットP.2

考えを深める支援ツールとしての活用

小5以上

児童生徒が個別に利用

例:中1国語
「根拠を明確にして意見文を書く」

主張と根拠の関係を明確にし、読み手に伝わる文章にする学習です。
AIを使う場合も、AIに文章を書かせず、読み手の立場から問い返す役割だけをもたせます。



1 自分で下書きを書く

自分の主張と根拠を整理します



2 自分に合った見直し方を選ぶ

自分で見直す

友達と読み合う

必要に応じてAIの問い返しを使う



3 自分の言葉で書き直す

必要な箇所を自分で修正し、文章を完成させます。

先生がAIへの指示をあらかじめ設定し、子供の考えを引き出したり広げたりする



「この文章で、あなたが一番伝えたいことは何ですか」
「その考えにつながった出来事や経験を、もう少し教えてください」
「反対の立場の人は、どのような疑問を持ちそうですか」

児童生徒の認知的オフロードに留意して利用

ガイドラインを現場に実装するための取組

資料整備

ガイドライン本体／教職員用概要版及びガイドブック／児童生徒・保護者向けリーフレット
事前学習用指導案・スライド・学習資料(R8は小学校低・中・高及び中学校の4種類)

生成 AI の利用に関するガイドライン(Ver.2.0) 概要版

生成 AI は、思考を広げ、学びを深めるための手段の1つ
「自分の考えを深め、自分の言葉で伝える力」を育てるための利用
～考え、問い、比べ、確かめ、決め、表す～



生成 AI サービス 2つの分類

- 生成 AI 専用サービス**
 - プロンプトに応じて、回答やコンテンツを生成
 - 利用者が、生成 AI の利用を明確に認識
 - 壁打ち・相談の活用
 - 例: Gemini / Gemini Notebook / Copilot
 - 児童生徒: 小1～小4: 個別・個別・個別利用、小5以上・中・高: 個別・個別・個別利用
- 生成 AI 機能搭載型サービス**
 - 本来の機能に加え、生成 AI 機能が組み込まれている
 - 生成 AI を意識せず、支援機能を使う場合もある
 - 主に検索・支援の活用
 - 例: Chrome / Edge / Canva / ジャストスタイル / その他
 - 児童生徒: Chrome / Canva / ジャストスタイル / その他

活用の方角性

- 数...算
 - 授業・校務で積極的に活用
 - 効果的な活用方法を研究
 - 児童生徒の活用を支援
- 児童生徒
 - 情報活用能力(デジタルリテラシー)の育成
 - 各教科等での学習活用

利用の基本ルール

- 教育委員会が認めた左記のサービスを用いた場合のみ利用
- 生成 AI は、あくまで人の情報やデータをもとに、質問に合うような文章や画像などを新しくつくる機能です。AI は「正解を持っている人」ではありません。
- 同じような質問でも、異なる回答が返ってくる可能性がある
- 誤用・誤用で、事実ではないことをもたらさる可能性がある
- 情報やデータの漏りや、悪用も注意

活用にあたっての留意事項

- 情報の信頼性
 - 誤情報(ハルシネーション)に留意
 - 複数の情報源でファクトチェック
- 情報セキュリティ
 - 個人情報・機密情報は入力しない
- 権利保護
 - 著作権等の権利侵害に注意
 - 有害・不適切な情報を確認

ガイドラインの概要 5つのポイント

- 1 全学年で事前学習**
事前学習(全学年)：学習・特性と関係・安全・倫理の理解を促す。教師による提示：事前学習を生かしてこの機会に学ぶ。個別・直接利用：原則、小5以上で、教師の管理下で利用。詳細は次頁で確認。
- 2 思考・判断・表現を大切に**
自分なりの考えをもち、利用技術を活用する。目的に応じて、生成 AI を利用する。自分の考えや資料と比べ、確かめる。本人の理解・確認し、最終判断をする。自分の考えを、自分の言葉で表現する。
- 3 教師の課す課題と私的な利用を区分**
教師の課す課題：教師が課題ごとに生成 AI 利用の目的・範囲・条件を明示。私的な利用：利用目的・保護者同意・家庭のルールに基づき。利用目的・保護者同意・家庭のルールに基づき。
- 4 完成品だけで評価しない**
AI 利用前の考えから、比較・検証、選択・修正、最終判断、結果での評価を評価。口頭説明等で本人の理解を確認。教科等の評価と AI 活用能力を区別。
- 5 支援技術として適切に活用**
読み書き・意思表出・日本語理解等において、国語の支援や授業の必要であり、学習目標や本人の教育的ニーズから必要性が認められる場合は、小4以下でも利用可。

教職員向け概要版

AI を安全に、確かめながら使おう

AI は「答えを教えてくれるもの」ではなく、自分が考えるための道具です。

AI の答えが正しいわけではありません。
まず自分で考え、AI の答えを点検し、必要な事実はもとの情報で確かめます。

AI ってどんなもの？

生成 AI は、たくさんの情報やデータをもとに、質問に合うような文章や画像などを新しくつくる機能です。AI は「正解を持っている人」ではありません。

同じような質問でも、異なる回答が返ってくる可能性がある

誤用・誤用で、事実ではないことをもたらさる可能性がある

情報やデータの漏りや、悪用も注意

AI ができること / できないこと・苦手なこと

AI ができること：学習を「助け」られる。考えを広げる。アイデアを出す。文章を整理する。別の見方を示す。

AI できないこと・苦手なこと：事実や事実や事実を正しく記憶する。大切なことを、人の代わりに判断する。

AI ができること、できないことを確認して、使うことが大切です

共通のコア

- AI の回答は正しいとは限らない
- AI に聞く前に、まず自分で考え、確認する
- 入力の方法によって回答は変わる
- AI の答えに含まれる事実は、もとの情報で確かめる
- 個人情報・秘密、他人の情報を入力しない
- 著作権・肖像権など他の人の権利を守る
- AI を使ってよい課題・場面が、考えて使う
- 最終は自分で判断し、理由を自分の言葉で説明する

事前学習資料

生成 AI と上手につきあおう！

～学習のためのルール～

安全で正しい方法「4つの原則」

- 1 事前学習**：全学年、学習・特性と関係・安全・倫理の理解を促す。
- 2 先生が関与**：児童生徒の活用を支援する。
- 3 みんなで使う**：授業・校務で積極的に活用する。
- 4 自分で直接使う**：原則、小5以上で、教師の管理下で利用。

生成 AI を使ったとき「5つのチェックポイント」

- 1 目的・問い**：自分の考えを深め、自分の言葉で伝える力。
- 2 AI を利用**：生成 AI を活用する。
- 3 信頼・検証**：生成 AI の回答を点検する。
- 4 表現・確認**：自分の考えを、自分の言葉で表現する。
- 5 自分の言葉**：自分の考えを、自分の言葉で表現する。

安全に使うための「3つの約束」

- 1 個人情報・秘密**：個人情報・秘密、他人の情報を入力しない。
- 2 著作権・肖像権**：著作権・肖像権など他の人の権利を守る。
- 3 生成 AI の活用**：生成 AI を活用する。

おすすめの使い方 / してはいけない使い方

おすすめの使い方 (利用 OK)：授業・校務で積極的に活用する。授業・校務で積極的に活用する。授業・校務で積極的に活用する。

してはいけない使い方 (利用 NG)：個人情報・秘密、他人の情報を入力しない。個人情報・秘密、他人の情報を入力しない。個人情報・秘密、他人の情報を入力しない。

AI を使ったときは、どこで使ったか、どこで使ったかを記録できるようにしよう。最終的に自分の言葉で、自分で表現する。

児童生徒用リーフレット

研修・支援

担当者説明会の実施／オンライン研修会(授業・校務における利用の具体)
授業・校務の事例と判断基準の共有(教職員用クラウド上にFAQやQ&Aを設置)

N	分類	Q	判	回答	ガイドブック参照ページ
23	個別・直接利用	授業中、児童が必要と思ったらいつでもAIを使ってよい。	×	教師が利用場面・範囲・条件を設定する。	P5 個別・直接利用／P18 授業利用時チェックリスト
24	個別・直接利用	教師が設定したGemを使うのはよい。	○	AI の役割や問い返し方を授業目標に合わせて設計でき、直接利用との相性がよい。	P7 児童生徒の役割分担／P18 授業利用時チェックリスト
25	個別・直接利用	グループで一台のAIを使ってよい。	○	可能。個別利用だけが生成 AI 活用ではなく、共同で生成結果を比較・検討する活用も重要である。	P5 教師による提示・共同利用／P7 児童生徒の利用

教職員向けFAQ

9

02 生成 AI を活用した学び

チェック表

【校務】利用時のチェックリスト

校務で生成 AI を使う際の留意点

1 利用目的・環境

- ☐ 校務の効率化・質向上に有効で、出力を判断できる業務か
- ☐ 市・学校の方針に沿い、許可された端末・サービス・アカウントか
- ☐ 最新の利用規約、データの保存・学習利用、共有範囲を確認したか



2 入力する情報

- ☐ 成績等の重要情報や、個人を特定できる情報を入力していないか
- ☐ 著作物・写真・未公表資料等を無断で入力していないか
- ☐ 入力が必要最小限とし、可能な範囲で匿名化・仮名化したか



3 出力の確認・修正

- ☐ 事実・数値・出典を、一次資料等で確かめたか
- ☐ 偏り、差別的表現、不適切な内容、著作権侵害がないか確認したか
- ☐ 学校・学級・相手に合うよう、教職員自身が加筆・修正したか



4 最終判断・説明

- ☐ 成績評価、生徒指導、健康・安全等の判断を AI に委ねていないか
- ☐ 最終判断・承認・説明責任を教職員が担っているか
- ☐ 必要に応じ、AI を使った目的・範囲・確認方法を説明・記録できるか



AI はたたき台・補助。専門的判断、最終決定、責任は教職員が担う。

17

【授業】利用時のチェックリスト

授業前から活動後まで、安全と学びの深まりのための留意点



1 学習目標・利用段階

- ☐ 学習目標の達成に有効か
- ☐ 発達段階や事前学習に応じ、教師提示・共同・直接利用の段階を選んだか
- ☐ AI を利用する場面と利用しない場面を検討したか(使いっぱなしにさせていないか)

2 事前指導・利用条件

- ☐ AI の誤り、真偽確認、個人情報、著作権、成果物の扱いを教えたか
- ☐ (小5以上で個別・直接利用する際は) 目的・使える範囲・時間や回数・終了条件を示したか
- ☐ (小5以上で個別・直接利用する際は) 認知的オフロードとなる学習過程になっていないか

3 活動中の見取り・評価

- ☐ 「自分で考える→AI→比べる・確かめる→直す→説明する」の流れになっているか
- ☐ 入力・出力・修正の過程を見取り、不要な対話を続けさせていないか
- ☐ 利用箇所・引用・出典を記録させ、自分の言葉や AI なしの再説明で理解を確かめたか

その他 依存を防ぐ・人に相談する

- ☐ AI は人・友達・先生・相談相手ではないと伝えたか(悩みは必ず人に相談することも)
- ☐ やめにくさ、隠れた利用、会話や生活への影響を見取り、早めに人へつなげられるか

依存が気になるとき | 3 つの動き

- | | | |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| ● 気づく
やめにくい・生活に影響 | ● いったん止める
画面を閉じ、休む | ● 人につなぐ
叱らずに聞き、校内・家庭と連携 |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|

18

AIを使う前後に立ち止まり、教職員が判断するための共通基準

今後の実装ロードマップ

令和8年度

共通理解・試行

- Ver.2.0の試行運用
- 4パターン(小低・中・高・中学)の学習
- 担当者説明会・校内研修
- 意見を踏まえVer.2.1へ

令和9年度

授業への定着

- Ver.2.2の運用
- 学年別カリキュラム
- 授業設計を中心とした研修
- 学校訪問における指導助言
- 授業実践、判断基準の蓄積・共有

令和10年度以降

情報活用能力へ統合

- メディアリテラシーを含む情報カリキュラムへ発展
- 教科の授業研究への位置付け

試行で見えた課題を、次年度の教材・研修・運用に反映し続ける

実装に必要な「進める」と「守る」

活用・実装

- 1 教職員の理解
- 2 授業設計・校務活用の質
- 3 学校間の差を小さくする支援
- 4 児童生徒への系統的な学習
- 5 保護者への分かりやすい説明

安全・適正利用

- 1 個人情報・情報セキュリティ
- 2 著作権・コンプライアンス
- 3 依存・認知的オフロード
- 4 発達段階に応じた利用
- 5 インクルーシブな利用

■ 協議いただきたいこと(論点)

学校現場への実装

生成AI活用ガイドラインVer.2.0の趣旨を学校現場に実装し、児童生徒の安全かつ適切な活用につなげるために、今後どのような取組が必要か。